Mizuuo01:2001年4月28日17時25分
BL102cm 東海大学裏の海岸

Mizuuo02:2002年3月5日12時39分
BL99cm 東海大学裏の海岸

ミズウオという魚は、世間ではあまり知られていない深海魚の1種です。その名前のように体には水分が多く、約94%も含まれています。それはミズクラゲなどの仲間とほぼ同じ値です。そのため食用にもならず水産学的な価値はありません。体は軟らかく鱗のないミズウオは、ウナギのように体をくねらせて泳ぎまわります。大きな口、眼、背鰭を持ち、上・下顎にある大きく鋭い歯は、刃物のように鋭くて危険です。また、成長すると2m位の大きさになりますが、私たちが眼にするものは体長が60～130cm位の若い個体です。

本種はミズウオ科に属する2種の内の1種で、その分布は両極域地方を除く世界の海洋の深海から知られています。他の1種はツマリミズウオと呼ばれミズウオとほとんど同じ海域に生息していますが、何故か北太平洋域からの採集の記録は見当たりません。この2種は、背鰭の形態やその始部の位置さらに体表にある黒色素の濃淡などが違うので、両種の区別は容易です。

ところで、駿河湾口部から進入したミズウオは、水深100～300mの黒潮系水中を、伊豆半島寄りの駿河トラフを湾奥まで北上します。その途中に位置している三保半島や湾奥の沼津や三津海岸に生きたまま打ち上がるのは、冬春季における当湾の風物詩としてこの地域でよく知られていて他の地域では知られていません。

ミズウオが三保海岸に打ち上がるのは、毎年11月から翌年の5月頃まで、年によって打ち上がる時期の最初と最後は多少変動することはありますが、冬季を中心に毎年繰り返されている現象です。その打ち上げの要因は、1) 駿河湾の冬季における表層水の冷却による水温の低下（表面から300m位まで均一で15℃以下となる混合期に相当）。2) 三保海岸に接近する急深な海底地形。3) 冬季に吹く西寄りの季節風の起こす湧昇流等によると推察されます。一般に本種が打ち上がるのは、西高東低の気圧配置下で(北)西風が吹き続けた後、移動性高気圧のもとで気圧が上がり、風も収まって海面が穏やかな日に多く打ち上がる傾向があります。

この時期の三寒四温の天候が崩れる数日前にミズウオの打ち上げが見られ、その後降雨があります。そのためこの地方では本種が打ちあがると天候が崩れて雨が降るという言い伝えがあり、天気予報をする魚でもあります。

このミズウオの食性は極めて貪欲であり、その生息している海域にいる多くの生物を食べているので、次回からその興味深い食生活を紹介したいと思います。